

17年度版犯罪白書から その

非行少年の周囲は

さて、少年院の教官への調査で「指導力に問題のある保護者が増えたか」との問いに 82.7%が「増えた」と認識しています。その内容としては、

- 子どもの行動に対する責任感がない 62.5%
- 子どもの言いなりになっている 50.2%
- 子どもの行動に無関心である 49.1%
- 子どもの問題を他のせいにする 43.2%
- 虐待がある 36.1%
- 子どもに対して過干渉的である 23.6%

のほか、父母の指導が一致していない・子どもに親の考えを一方向的に押し付けるなどがありました。

犯罪白書には「保護者調査では、子育ての問題として、保護者は、『子供に口うるさかった』、『夫婦の子育ての方針が一致していなかった』などを上位に挙げていたが(参照図番号省略)、少年院教官は、過干渉や父母の指導不一致よりも、親としての子供に対する責任感、関心が最近の保護者に不足していると感じていることがうかがわれる」とコメントしてあります。なぜズレがあるのかには答えるコメントがありません。せっかく調査するのだから、そこら辺をもっと探っていただきたいものです。個人的には、少年院の教官が何回か面接したときに感じた保護者の資質面なども合わせて調査すると何か興味深い結果が出たかも...と思うのですが。

また、「最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる少年の家族関係の問題には、どのようなものがありますか」との問い(複数回答あり)には、「家族との情緒的交流がない」が 64.3%で2番目に多かった「非行が家族に与えた影響を理解できない」の 37.9%を大きく上回っています。この点について犯罪白書は、「非行少年調査では、家庭生活に対する満足度が上昇傾向にあり、親への不満も弱まりつつあることがうかがわれるが、少年院教官は、親子がぶつかり合うことも含めた家族との情緒的交流の乏しさが問題であると考えていることがうかがわれる」としています。

家族間の情緒的交流が乏しい家庭は一般にも多くなっているのでしょうか。また、こういった家庭ではどこにその原因があるのか。そこら辺が気

になります。家族間の情緒的交流が乏しいということについて、上述したように、もし、子どもも大人も資質面に問題を抱えている者が多くなっているとすれば、保護者にも子どもにもそういう人がいる家庭が多くなっているとも考えられます。つまり、親か子または親子とも対人スキル(コミュニケーション能力など)が乏しい家庭が多くなっていると考えられるということです。それとも別の原因があるのでしょうか。

もっと広い視野で

少年非行や非行少年を理解しようとするとき、非行少年を調査することはあっても、少年一般についての調査や大人についての調査をし、それとの関連性を調べたものは目にしたことがありません。法務総合研究所では、平成2年と10年にも非行少年を対象にした意識調査を行っていますが、そういった視点での調査ではありませんでした。非行少年と認知された少年とそうでない少年とはどこがどれだけ異なっているのでしょうか。それぞれの生活環境はどれだけ異なっているのでしょうか。同じような境遇でも非行少年となってしまう少年とならない少年はどこが異なっているのでしょうか。たまたま非行が発覚したかしないかだけなのかなど、非行や非行の背景を私たちが語る時、本当はまだ何も知らないのではないかと考えています。知っているのは、非行と認知された少年たちのことだけです。もっと広く子ども一般について、今を知りたいとの思いがグルグルと頭の中を回りっぱなしです。

猿と人間は表面的には大きく異なりますが、DNAの世界では数%しか異ならないということを知りたくて読みました。もっと詳しく広い視野で調べてみると、非行をした少年としなかった少年の差違もわずかなことかも...。そして、子どもだけの問題ではないかも....。

(ひとりごと：犯罪白書で特集を組むならもっと大々的に深い調査をしてもらいたかったな。物足りないよね。税金使っているんだからさ、もっとね。)

亀山憲一 [会員・フリーで活動中の法学研究者
(犯罪学・刑事法)]